

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

平和市長会議加盟自治体を訪ねて(第一回)

野々市市

二四回目の広島への「平和の旅」

非核・石川の会は七月二四日、次世代をになう中学生を八月五日、六日に広島に派遣する「平和の旅」を継続実施している野々市市を訪問しました。野々市市総務課からは江川大祐主査、戸田清香主事に応対いただき、当会からは永山孝一常任世話人、神田順一事務局長、川本浩平事務局次長が出席しました。



野々市市庁舎に設置されている宣言標柱

県下で一番早く

「平和都市宣言」、平和市長会議に加盟

野々市町(当時、二〇一一年一月一日に野々市市)の「平和都市宣言」は県下で一番早く、一九八四年三月議会で採択されています。庁舎駐車場に三面塔が設置され、「平和都市宣言のまち」の標柱が立てられています。世界各国の都市と力を合わせて核兵器のない平和な世界の実現をめざす平和市長会議(歴代の広島市長が会長)にも二〇〇八年二月、野々市町は県下で最初に加盟しています。当時の秋葉忠利会長名の「平和市長会議加盟認定証」を見せていただきました。

広島への「平和の旅」は一九八七年にスタートしており、今年で二四回目となります。市民からの折り鶴募集では例年約三万羽集まっていますが、今年はすでに五万二千羽も集まっているそうです。

感動的な平和記念式典への参加

今年野々市中学校から七人、布水中学校から八人の中学生が参加、引率者を含めて一九人が参加します(経費は約七〇万円)。八月五日は原爆ドームと平和記念公園を訪問し、「原爆の子の像」前で平和宣言文を読み上げ、折り鶴を奉納します。八月六

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。



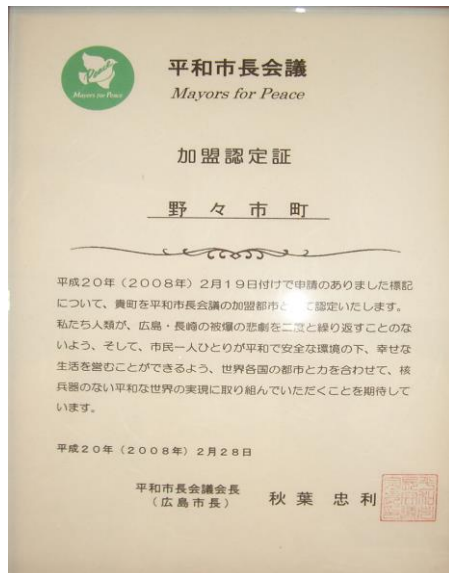
今年も六日と九日の原爆投下の日と一五日の終戦の日地域に寺院の平和の鐘つきに参加した▼小立野・犀川ロード九条の会は毎月三回「九の日」に主な交差点四か所を順に憲法を守るサイレント・アピールをしている▼二〇〇七年の安倍内閣の時、自・公が強行採決した国民投票法(改憲手続き法)で憲法審査会の設置をきめた。制定の経過や「付則」や一八項目の「付帯決議」が付き、重大な欠陥を持った法律で、国民の厳しい批判を受け四年半始動できなかった▼これには全国的に地域や職場に急速に広がった草の根の九条の会が大きな影響を与えた▼野田政権のもと、昨年一月から憲法審査会の実質的な審議が衆議院と参議院で始まっている。元憲法調査会会長らを参考人に質疑をする形と委員が自由に討論をする形で開かれている▼五月三日石川県民集会の主催者挨拶で岩淵正明弁護士は、憲法審査会や自民党などの改憲派の動向を詳しく解明し、現行憲法の平和理念を根本から否定するものであると述べられていた▼空白の四年半は改憲反対運動も沈滞気味でなかったか。九条の会の再活性化と改憲反対運動の高揚が今求められている。(平)

日は広島市平和記念式典に参加し、平和記念資料館を見学します。

「平和の旅」に参加した中学生は核兵器の恐ろしさ、平和と命の尊さを学ぶ機会となり、各学校の全国集会での報告会や感想文の広報への掲載、FM放送への出演等が計画されています。

昨年九月の「広報ののいち」には二人の中学生の素直な感想文が掲載されていました。

○平和記念式典で子ども代表が訴えた『今、世界



平和市長会議加盟認定証

〔編集部注〕

平和市長会議は、世界の都市が緊密な連携を築くことによって、核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起し、核兵器廃絶を実現させるとともに、人類の共存を脅かす飢餓、貧困、難民、人権などの諸問題の解決、さらには環境保護のために努力することによって世界恒久平和の実現に寄与することを目的としています。本年八月一日現在、世界一五三カ国・地域で五三一二都市が賛同しており、日本では一一五九自治体が加盟しています。

中の人々が望んでいることはこんな争いではなく、平和に普通に暮らすこと』の大切さを、改めてこの平和の旅で感じることができました。

○私たちが世界平和に貢献するためには、戦争のことを学び、全校生徒をはじめ、多くの人々に伝えることが一番大切だと思っています。

「原爆の子の像」にささげる折り鶴の募集や「平和の旅」の参加報告を通じて、平和な社会づくりをめざしている野々市市の取り組みに共感しました。

御経塚イオンにて 原爆パネル展を開催

野々市市では日本被団協が作成した「原爆と人間展」パネルを所蔵しており、これまで中学校や情報交流館カメラリア（市役所併設）で原爆パネル展を開催しており、観覧者の感想がたくさん寄せられています。今年は八月二日から二七日まで、御経塚イオンで初めて計画しており、大勢の市民参加が期待されています。

◇ ◇ ◇
 (「広報ののいち」二〇一一年九月号より転載)

平和への願いを込めて

八月六日、野々市・布水両中学校から一四人の生徒が広島市平和記念式典に参加し、平和への祈りを捧げました。また、原爆の子の像前では平和宣言文を読み上げ、町内から寄せられた約三万五千羽の折り鶴を納めました。

生徒の感想文をご紹介します。

「平和の旅で感じたこと」

今は美しいあの広島街が六六年前、一発の原子爆弾によって何もなくなってしまう町になっていたというところが今でも信じられません。

平和記念公園に行くと、すぐ目に飛び込んできた建物がありました。原爆ドームです。周りに散らばっているレンガ、もう骨組みしか残っていない屋根、その建物の何もかもが戦争の悲惨さを物語っていました。そして、その平和記念公園に流れているとても大きな川。当時はあの川に水を求める人の死体でいっぱいだった、という話を聞いて、とても衝撃を受けました。そして、平和記念資料館の写真や実物。一つも笑顔がなくて「なんで、こんなことをしたの」と私たちに訴えかけているように感じました。なぜ、何も罪のない人びとが犠牲にならなければならなかったのか、意味が分かりませんでした。そして、怒りと悲しみの気持ちでいっぱいになりました。

平和記念式典ではたくさんの方が参列していました。その中には外国の方もたくさんいらっしゃいました。子ども代表の方たちの「平和の誓い」のなかにこんな言葉がありました。「戦争をするのは人間です。だから人間の力で戦争を止めることができます。だと思います」確かに、その通りだと思います。「今、世界中の人が望んでいることはこんな争いではなく平和に普通に暮らすことなんだ」と改めて、この平和の旅で感じることができました。

私はいつか、この世界が戦争のない平和な世の中になることを願っています。(中学三年生の感想文)

原水爆禁止世界大会に参加して

加藤 邦夫

今年の世界大会は、広島にて開催されました。

五月四日(土) 開会総会 一〇時～一六時

広島県立総合体育会館グリーンアリーナ

五日(日) 分科会 九時半～一五時

非核平和の日本…非核三原則の

実行・核密約破棄・米軍基地

撤去の分科会に参加

六日(月) 広島市平和記念式典 八時～九時

原水爆禁止世界大会閉会総会

一〇時半～一三時

分科会では、「核の傘」論、「オスプレイの危険」

について各地から報告がありました(沖縄・岡山・

広島・高知・群馬・静岡・東京・埼玉・鳥取)。

現在でも米軍が低空飛行をすると「民家の土蔵

が破壊される」「大人も耳をふさぐ。学校では一〇

分ぐらい子どもが席に戻れない」「衝撃波のため窓

ガラスが割れる」などの被害が報告されました。オ

スプレイは一五〇m(極端な事例では五〇m)の低

空で飛行するので耐えられない。

そんな中で岩国にオスプレイ一二機が持ち込ま

れました。これには、基地に協力することを基本方

針としている山口県知事や岩国市長でさえ反対の

姿勢を示している。オスプレイを「安保があるから

断れない」なら「安保そのものを見直そう」という

声が出てきている。

全体を通じて、

- ① 核兵器全面禁止のアピール」署名をすすめる。
- ② 持ち込みの日米密約の破棄「非核三原則」の厳守、オスプレイ配備反対。
- ③ 「原発からの撤退」と自然エネルギーへの転換を求め「核兵器のない世界」への扉を開くため私も全力をつくしがんばりたいと思います。

たいへん暑いなかでの大会でしたが、核廃絶の運

動の大切さとともにこれからの運動にがんばる決

意を固めた大会でした。

(非核の政府を求める石川の会監事)



原水爆禁止 2012 年世界大会の閉会総会にて

二〇一二年原水爆禁止世界大会への 代表派遣募金のお礼

右記募金をお願いしましたところ一五人から三
一五〇〇円寄せられました。

心からお礼を申し上げご報告いたします。

非核・石川の会は加藤邦夫幹事を代表派遣しまし
た。

世界大会の各国、各界代表の発言や方針を学び非
核・石川の会の運動に生かしていきます。

◇ ◇ ◇

二〇一二年日本平和大会への 参加者を募集します

日本平和大会は、一月二三日(金)～二五日(日)に東
京で開催されます。日本平和大会に参加をご希望の
方は事務局へお尋ね下さい。

非核・石川の会の財政は会費と寄付金(代表派遣
募金)で賄っております。皆さんのご協力をいただ
き代表を送り出しましょう。

次号であらためてお願いを申し上げます。

二〇一二年八月一日

非核の政府を求める石川の会常任世話人会

カンタータ「悪魔の飽食」 石川公演を終えて

石川公演実行委員会事務局長 中村昭一

カンタータ「悪魔の飽食」第二三回全国縦断コンサート石川公演が六月一七日、石川県立音楽堂コンサートホールにて開かれ、池辺晋一郎氏の指揮の下、地元石川と全国から駆けつけた合計五〇〇人の大合唱が、アンサンブル金沢の管弦楽と心を一つにして平和のカンタータを歌いあげました。満員の一五〇〇人の聴衆からは惜しみない拍手が送られ、感動的なフィナーレとなりました。

演奏会の第二部に「森村誠一&池辺晋一郎両氏対談」があり、森村氏が七三一部隊と金沢の所縁について特に触れ、それが第三部でのカンタータ演奏の重みを増すことにつながりました。



演奏会の前に行われた森村誠一&池辺晋一郎両氏の対談

終了後のアンケートには、「音楽という芸術の力は、怒りや悲惨を勇氣と希望に変える力がある」「温かく力強く励まされました」「歌声と存在感は、あまりに堂々と美しく、そしてハッキリとこちらに迫ってきました」等々、感動が多々綴られていました。

さて、取り組みの感想ですが、そもそも実行委員会は困難な中からの船出でした。基軸となる合唱団の数は少なく、実行委員も少数でした。また仕事内容についても、当初は混乱しました。また、県内の全ての名だたる合唱団に団員募集の挨拶に伺っても、重い反応でした。しかしその中から次第に石川公演に相応しい態勢が整えられていきました。

公演に協力を申し出た各実行委員の持ち味や特性を活かした配置・役割分担が機能し始め、さらに後援の承認や呼びかけ賛同(団体・個人)の増加と次第に反応が広がり、賛同金とプログラム広告料は目標を超過達成することができました。特に、全日本合唱連盟と日本のうたごえ全国協議会の正式な後援を並んで得られたことは大きな前進でした。

また一〇カ月に亘る合唱練習も、当初は音程もおぼつかず不安に満ちたものでしたが、指導者の粘り強い指導によって次第に安定し、池辺特別レッスンのあった公演二ヶ月前には一定の演奏水準に到達し、これで一気に本番モードとなりました。プログラムの表紙絵にも奥深いものを戴き、公演の品質の高さを象徴するものとなりました。

チケット販売も、二週間前で入金八二五枚にすぎず、とても不安でしたが、最後の踏ん張りで公演前日の入金が一四五〇枚となり、漸く光が差し込んだ



県立音楽堂コンサートホールの舞台上で500人が「悪魔の飽食」を大合唱しました

気持ちでした。最後の追い上げは、公演を何としても成功させたいという関係者全員の熱い願いが届いたものであり、作品「悪魔の飽食」と森村・池辺コンビの底力だと思えます。

さまざまな経緯を経た本番では、合唱は素晴らしき管弦楽と調和し、聴衆の集中度と石川と全国からの合唱参加者の集中度とが相俟って、「たった一つの石川公演」は成功しました。このような人と人をつ結びつけ人間らしさを継承し続ける営み(文化のチカラ)は、誰しもが内に秘めている人間の魔性を呼び醒ませぬ保証となるものであり、今回はその象徴的な催事となったのではないかと考えています。ともあれ、コンサートが成功したのは、ひとえに支援して下さる多くの皆さんのおかげです。本当に有難うございました。

被爆証言

被爆六七年目の夏に思う(下)

石川県原爆被災者友の会
事務局次長 中田喜重

原爆症認定集団訴訟で明らかになった
内部被曝の影響

原爆症認定集団訴訟の中で、かなり明らかになってきた、残留放射線の影響、内部被曝の問題は、福島の人たちの今後の健康対策に生かす運動をつくらせていく上で大きな役割を果たすものと思います。広島・長崎の核被害を体験した私たち(被爆者の運動)も、新たな核被害「フクシマ」の問題に被爆者としてどう関わった運動をつくっていくかが問われていると思っています。

広島・長崎・ビキニ第五福竜丸、そして福島と四度の核被害を受けた国は世界に、他にありません。

原発に依存しない社会を

私は、この地震列島日本に人間のコントロールの及ばない原発はいらない。一刻も早く廃炉にしなくてはならないと思っています。現在国民の圧倒的多数が、原発のない社会を望んでいるのですから。

原発事故から一年を機に、三月に行われた日本世論調査会の全国世論調査の結果によれば、「脱原発」を八〇%が支持しています。

核兵器と(プルトニウムを生み出す)原発は表裏一体のものと思います。

これ以上、被ばく者を絶対につくらせてはなりません。

核兵器の廃絶、そして原発の廃炉へ向けた取り組み、これは、唯一の被爆国日本に住む私たちすべての人の緊急の課題だと思います。

核兵器廃絶の運動と原発ゼロをめざす運動は車の両輪の関係にあると思います。

「核兵器なくせ!・原発なくせ!・ヒバクシヤをつくるな!」の声が大きな国民運動になることを願って、私の報告を終わります。

資料

原爆症「新認定基準」

- ① 被爆地点が三・五km以内であるもの
- ② 原爆投下より約一〇〇時間以内に爆心地から二km以内に入市したもの
- ③ 原爆投下より約一〇〇時間経過後約二週間に、一週間程度以上滞在したもの

この条件で、放射線起因性が推認される疾病としてガンや白血病など、極めてわずかの病気を認定の範囲に入れていくにすぎないのです。

特に入市被爆者をはじめ遠距離被爆者の被害、誘導放射線や放射性降下物からの放射線「残留放射線」での影響を軽く、小さく、狭いものとして、初期放射線の影響しか認めようとしません。

「時間と距離を厳しく制限して僅かな範囲しか認めない基準」

(被団協文書より)

再処理からできるプルトニウム

現在、日本国内には、核分裂性のプルトニウムが六・七トンあり、イギリスに一一・六トン、フランスに一一・七トン、合計すると三〇トンが日本のプルトニウムということになります。

また、核分裂性ではないプルトニウムも含めると、国内に約一〇トン、英仏両国合計で約三五トン、合計して約四五トンを日本が保有していることになります。

(河野太郎『原発と日本はこうなる』より)

すでに原爆八〇発分の放射能が拡散している

(小出裕章『原発のウソ』より)

「脱原発」賛成八〇% 全国世論調査

原発への依存度を段階的に下げ、将来は原発をなくす「脱原発」という考え方に「賛成」(四四%)、「どちらかといえば賛成」(三六%)を合わせて八〇%に上がることが、日本世論調査会が三月一〇、一一の両日に実施した東日本大震災一年の全国面接世論調査で分かった。

(三月一八日全国各紙が報道)

◎ 本稿は六月一〇日、県教育会館ホールで開かれた核戦争を防止する石川医師の会総会(記念企画「被ばく証言とナターシャ・グジーコンサート」)における中田喜重さんの被ばく証言です。

非核石川の会 リレーエッセイ

今年のIPPNW世界大会に望むこと

― 脱原発から核廃絶へ ―

白崎良明

今年も八月六日、九日を迎えた。広島を最初に訪れたのは大学三年生のときである。夏休みに入って、連日、旧丸越デパート前で募金活動に取り組み、真っ黒になって広島、長崎の原水爆禁止世界大会に参加した。長崎に向かう車中でアフリカから来た青年と片言の英語で交流し、世界中に運動は広がっていることを実感した。

この八月二三日から、広島で第二〇回核戦争防止国際医師会議（IPPNW）世界大会が開かれる。IPPNWは七〇年代の核戦争が危惧される国際情勢の中で、核戦争によって引き起こされる障害、疾病に関して医師は無力であり、予防に立ち上がるのが医師の責務であると旧ソ連とアメリカの医師が共同で設立した組織である。核戦争の危機に対して警鐘をならし、核兵器削減に向かう、国際世論形成に役割を果たしたことで一九八五年にノーベル平和賞を受賞した。

一九八八年一月に登谷栄作先生を代表として核戦争を防止する石川医師の会（以下、石川反核医師の会）を結成した。同年六月にモントリオールで行われた第八回IPPNW世界大会に石川から登谷先生、苜昭三先生と私が参加した。モントリオール世界大会の大会長は当時のカナダ医師会会長のメ

リーウィン・アシユフオード先生（女医）であった。四年前に金沢にお招きした時に「お互いに長い間がんばってきたね」と言われて初心に帰った気持ちであった。

さて、今年のIPPNW世界大会は福島第一原発事故後に行われる大会として原発のことは避けて通れず、「福島第一原発事故の経緯と医療支援」の全体会議も開かれる。石川反核医師の会も加盟している核戦争に反対する医師の会（PANW）もワーキングショップ「脱原発から核廃絶へ」を主催する。

韓国の原発建設は日本を上回る計画となっている。韓国で原発事故が起きれば、間違いなく、放射性物質は日本に広範囲に拡散される。今年、韓国にも反核医師の会が設立され、脱原発の国民運動も始まっていると聞く。「北東アジア非核地帯」を目指して共同の取り組みを始めることを願って大会に参加したい。

詩人会議いしかわ「独標」より

三十年

大川 陽一

待合せのジョーハウスのドアを開け

次々に懐かしい顔が現われた

今日は 美大卒業三十周年のクラス会

「オー！ あんた誰？」

「なーん、変わらんじー」

どよめく歓声

しわの増えた笑顔がひしめく

男女半々のクラスは

ずっと四年間一緒だった

夜空の星のように

いくつかのカップルが生まれて消えた

学園祭の模擬店の灯りが

明け方まで瞬いていた

中学入学から大学卒業までの十年間

ビートルズ解散と万博で幕が開いた

七〇年代は僕たちの時代だった

まだパソコンもケータイもなかったけれど

みんな幸せだった

僕たちは 想いを伝える仕事を選んだ

皆で小立野通りを歩き 学び舎へ

一年生の時の教室のベランダで

あの頃と同じ並びで記念写真

違うのは 振り積もった時間と

胸に抱いた二つの「笑顔」

秋空に午后の陽が傾き

校庭のサッカーゴールが影を曳く

夕暮れ時 金沢・奥座敷の宿で

三十年振りの宴が始まった

大震災も知らずに逝った

二人の友に黙祷

乾杯と近況報告が続く

遠方の友たちを迎えるため

僕たち地元組は
一年前から準備を重ねた
こんな集まってくれたことに
ただただ感無量

みんな笑っていた
あの頃 好きだった彼女も
二十歳のままの笑顔で

一九八〇年 僕たちは
それぞれの夢を抱え
列車に飛び乗り 東へ西へ

いくつもの岐路で 大切な人に出会い
今日まで歩いてきた それぞれの人生

ここはみんなの故郷だ
僕たちは 想いを伝えることが
できたのだろうか

翌日 眠い眼をこすり
都会へ帰る 話し足りない友たちの
肩と背を見送る
帰ろう

皆それぞれの 大切な場所へ

◎いしかわピース9フェスティバルのご案内

九月二三日(日)、金沢市民芸術村で開かれるピース
9フェスティバルの展示部門に本紙の文化欄に寄
稿いただいている詩人会議かなざわ「独標」、和川
柳社、金沢医療生協絵手紙班の皆さんが出品します。
詳しくは同封の案内チラシをご覧ください。

「和定例句会報」より

宿題「詭弁」

前抜

傀儡は唯々諾々でオスプレイ
野田語録詭弁繋いで悪あがき
活断層あるのに無いと詭弁いい
ソフィストが日本の詭弁嗤ってる
また詭弁オスプレイは安全だ
ひな壇は三年足らずで詭弁の山
詭弁でも原発依存と居丈高

岡田 一杜 選

啓

大峰

茂明

林

茂明

林

啓

佳作

軸

社会保障こわして自助という詭弁
抑止力こじつけ日本にオスプレイ

「大洪水よ、わが亡きあとに来たれ」これがすべ
ての資本家及び資本家国民のスローガンである。
(マルクス資本論) (次の原子力大事故はわが亡
きあとに起きよ)これが原発再稼働派の利己主義
によるモットー(信条)である。

絵手紙コーナー



家庭菜園

金沢医療生協・若松絵手紙班
家 正子

《非核平和・行事予定》

- 八月二十五日(出)一八時半～二〇時半：平和納涼盆踊り・上荒屋クリニツク
- 八月二十五日(出)～二十六日(日)：日本母親大会・記念講演 斉藤貴男氏二三・一一以後私たちがどう生きるか「新潟市朱鷺メッセ・主催日本母親大会実行委員会
- 八月二十五日(出)～二十六日(日)：第三三回原子力発電問題全国シンポジウム「福島原発災害の教訓をどう生かすか」福井県敦賀市ニューサンピア敦賀・主催日本科学者会議エネルギー・原子力問題研究委員会、第三三回シンポジウム実行委員会
- 八月二十六日(日)一七時～一七時：第三回「九条の会」北陸ブロック交流会・講演：高田健九条の会事務局員・福井市福井県教育センター
- 八月二十九日(水)一八時半：原水爆禁止世界大会・石川県参加者報告会・勤医協三階ホール
- 九月一日(土)一七時～一七時：鎌仲ひとみ監督トークと映画上映の会・三・一一後の最新ドキュメンタリ映画「内部被ばくを生き抜く」・内灘町役場町民ホール・前売り千円・主催上映実行委員会
- 九月六日(木)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- 九月八日(土)～九日(日)：高松歴史街道フェスティバル「鶴彬こころの軌跡」・講演「鶴彬の今日的意義」・安宅夏夫詩人、文芸評論家、室生犀星研究者 主催フェスティバル実行委員会
- 九月一四日(金)一八時：非核石川の会・常任世話人会 いちば館四階研修室三
- 九月二三日(日)一三時：いしかわピース9フェスティバル・スペシャルゲスト笠木透・金沢市民芸術村・

主催ピース9フェスティバル実行委員会
 九月二十五日(火)～二七日(木)：沖縄視察ツアー・石川県平和委員会
 九月二十八日(金)一八時四五分：金沢市民劇場例会「白バラの祈り」劇団民芸・野々市文化会館フォルテ

九月二十九日(土)～一〇月一二日(金)：映画・道―白磁の人―シネモンド(上映時間は新聞の映画欄を確認)

九月三〇日(日)：健生クリニック・健康まつり・南健康友の会

九月三〇日(日)一四時半～金沢市民劇場例会「白バラの祈り」劇団民芸・金沢文化ホール

一〇月九日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前

一〇月二二日(日)第一六回やすらぎの里まつり・西健康福祉友の会

一一月六日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前

一一月二二日(日)一三時半：石川県保険医協会・小出裕章講演会・ホテル金沢

一一月三三日(金)～二五日(日)：日本平和大会・東京

一二月六日(木)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前

《編集室より》

◎非核・石川の会が今年四月に県内自治体対象に実施した「非核・平和施策に関するアンケート」では、非核・平和都市宣言を採択していても平和事業、年間予算ともゼロの自治体が何ヶ所もありました。一方で平和市長会議や日本非核宣言自治体協議会に加盟し、全国各地の自治体と交流しながら平和事業を推進している自治体の存在も明らかになりました。このため当会では平和市長会議加盟自治体(野々市市、内灘町、珠洲市、七尾市、金沢市)を

順次訪問し、それぞれの平和事業の特徴や住民からの反響等をお尋ねし、当会会報にシリーズ掲載していきます。次回は今年、内灘闘争六〇周年を迎えた内灘町です。(か)

◎県内の「平和市長会議」加盟自治体を訪問する『非核・いしかわ』の企画で新生・野々市市庁舎を訪問しました。この庁舎は平成十六年、新しい野々市町役場と情報交流館カメラアとして竣工。市のHPでは「これは住民同士のコミュニケーションをより生み出せるよう、地域のふれあいを大切に考えて造られました。平成二十三年十一月の市制施行と同時に市役所庁舎となりました。庁舎は、行政・議会・住民がそれぞれ向き合うことをイメージしたコの字型となつて…さまざまな場面においてだれもが利用しやすいよう工夫されています」とあります。

(野々市市→<http://www.city.nonouchi.lg.jp/>)

そこで思い出したのが、平成八年完成の掛川市庁舎(静岡県)で、設計者のHPでは「新庁舎は、自然の丘や緑を活かす配置、エコロジカルな建築、市民に分かりやすい構成などを基本とし、オープンな執務室と縁側の廊下、階段状の生涯学習テラスとアトリウムなど、ひと目で全体が理解できる開放的建築とした」(日建設計)とあり、いずれも好感度の高い庁舎です。一方、それでも暗い中廊下型って、「昼なお暗き」自治体庁舎が多いなかで、せめて市民の生活と平和への切実な願いを届けることで、明るさを取り戻したい。(こ)